

# 経済統計にみる日本経済

太田正行 東京都立荒川商業高等学校教諭

## 1 新聞活用のねらい

- ①日本経済の現状を理解するには、教科書や資料集だけではなく、経済に関する新聞記事を読み、まず興味・関心を高めることが不可欠である。
- ②新聞に掲載される日本経済に関する最新の統計類を学習することにより、今日の日本経済を動的にとらえることができる。
- ③さまざまな経済統計を学ぶことにより、日本経済を多角的・多面的にとらえることができる。

## 2 授業構成

(1～2時間)

### ねらい

- ①「失業率4.3%」の記事について内容を理解させる。

- ②2つの記事を比較検討させる。

- ③完全失業率、有効求人倍率について理解させる。

- ④「年齢別完全失業者数」の棒グラフと「失業率と求人倍率の動き」の折れ線グラフで具体的に理解させる。

- ⑤日本経済の現況を表す統計には、失業率のほかにもどのようなものがあるのかを考えさせる。

### おもな学習活動

- ①「失業率4.3%」の記事を読み、その内容を要約する。

資料▶ 1 2

指導の  
ポイント

失業率4.3%の記事について、リード文をまとめたり、本文を段落ごとにまとめるなど、要約の仕方を指導する。

- ②記事を比較して、見出しの付け方や図版の扱いの違いなどを話し合ったり書き出したりする。

資料▶ 1 2

指導の  
ポイント

資料1の見出しは働き盛りが高水準になっていることを強調しているのに対して、資料2の見出しは女性が0.3ポイント上昇したこと、失業手当の受給者が100万人を超えたことを強調している。また、資料1は、年齢別完全失業者数を、資料2は男女平均と女性の失業率の推移と有効求人倍率の推移を示すグラフを掲載している。

毎月発表される失業率をグラフ化させ、そこから何が読み取れるか指導する。

- ③完全失業率・有効求人倍率の意味、計算の仕方を教科書や資料などで調べる。

資料▶ 3

指導の  
ポイント

日本国の失業率の定義は、外国と異なることを指摘し、国際比較をする際には注意させる。

- ④「年齢別完全失業者数」を読み取り、特色をまとめてその原因について考えてみる。また、「失業率と求人倍率の動き」を読み取り、その特徴をまとめる。

資料▶ 1 2

指導の  
ポイント

60歳の失業者が多いのは定年退職で失業保険を申請するためであることを注意させる。

- ⑤資料4に掲載されている指標について、それに関する記事を探しスクラップする。

資料▶ 4

指導の  
ポイント

完全失業率のほか、物価指数や百貨店販売額、家計消費支出、鉱工業指数、国際収支などは経済面に毎月掲載されるので注意して記事を探すよう指導する。

資料1 毎日新聞  
1998.7.31付夕刊

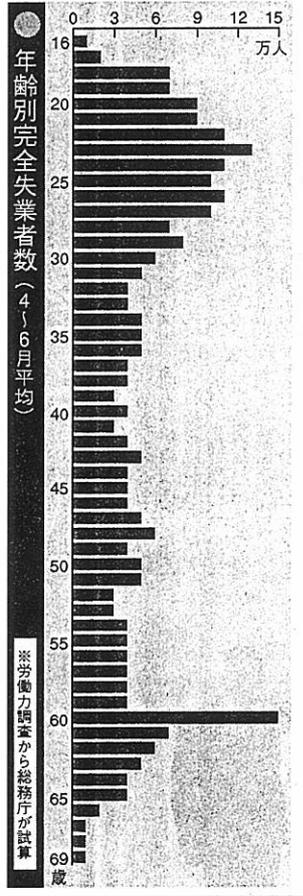
# 失業率4.3% 最悪を更新

総務庁が31日発表した6月の労働力調査による、完全失業率は前月比0.2ポイント悪化して4.3%となり、1953年の調査開始以来、最悪の数字になった。労働者が同日まとめた6月の有効求人倍率(同)も前月を0.02ポイント下回る0.51倍で、78年1月と並んで統計史上最悪の水準。完全失業率は米国の0.2ポイント悪化した4.5%となったため日米の逆転は免れたものの、戦後最悪の不況の下で雇用情勢の悪化には歯止めがつかず、小淵内閣は発足早々厳しい数字を突き付けられた。

(社会面に関連記事)

完全失業率は4月に過去最悪の4.1%を悪化した後、5月は4.1%と横ばいだったが、再び記録を更新した。特に女性は、雇用量が3年2月ぶりに前年同月比で減少に転じたことなどで、前月の3.9%

## 6月 働き盛り、高水準に 有効求人倍率も最悪0.51倍



男性1.6万人、女性1.1月に比べ37万人、18万人増5万人で、それぞれ前年同月増加した。

年齢別では、これまで低水準だった男性の35-44歳

資料2 朝日新聞  
1998.7.31付夕刊

# 失業率4.3% 最悪更新

## 女性の上昇が失業手当100万人

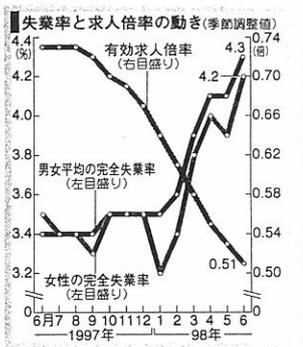
総務庁が31日発表した労働調査で、6月の完全失業率は4.3%となり、前月を0.2ポイント悪化した。男性は横ばいの4.3%だったが、労働者が同日発表した6月の有効求人倍率(同)は0.51倍となり、前月を0.02ポイント悪化した。同月の雇用保険(失業手当)の受給者は百四十万人で、約二年ぶりに百万人を超えた。

総務庁によると、完全失業者は百八十四万人で、前年同月比で五十五万人も増えた。うち、企業倒産、リストラなど「非自発的離職」による失業は九十万で、三十四万人増。主婦などから新たな雇用対策を

総務庁が先発表した六月の失業率は四・三%となり、現行調査を始めた一九五三年以降最悪だった前月を〇・二ポイント悪化し、記録を更新した。男女別では、女性が四・三%となり、最悪になった。男性は横ばいの四・三%だった。労働者が同日発表した六月の有効求人倍率(同)は〇・五一倍で、前月を〇・〇二ポイント悪化した。同月の雇用保険(失業手当)の受給者は百四十万人で、約二年ぶりに百万人を超えた。

も六十九万人で、十二万人増え、女性の失業率の悪化の要因の一つになった。年齢別の完全失業率をみると、男性の十五-二十四歳が七・八%、六十六-七十四歳が二・〇%で、それぞれ前年同月比で、一・二ポイント悪化し、若年と高世代の雇用環境の悪化が目立つ。さらにこれまで二・〇%前後と比較的良かった三十五-四十四歳の男性も二・九%で、一・〇ポイント悪化している。就業数は六千六百八十八万人減、建設業が二十一万減とそれぞれ、十三万減、八万減に減少している。悪化の流れに歯止めがかからない運輸・通信業、卸売・小売業・飲食店も減少し、かろうじて増えているのはサービス業だけだ。また、労働者による六月の新規求人は前年同月に比べ一・一%減、産業別では、製造業が一・六%減、建設業が一・五%減、運輸・通信業が二・六%減と軒並み二けたの減少となった。

### 6月調査



七五年四月(八十七万人)に次いで多くなった。また、労働者による六月の新規求人は前年同月に比べ一・一%減、産業別では、製造業が一・六%減、建設業が一・五%減、運輸・通信業が二・六%減と軒並み二けたの減少となった。

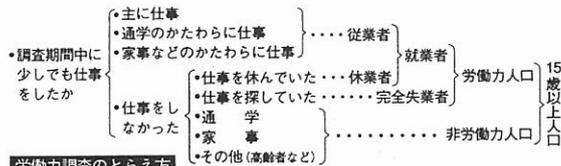
3 評価の観点

- ①新聞記事に関心を持ち、新聞を読もうとする意欲を高めることができたか。
- ②日本経済を理解するためには、さまざまな指標が活用できることに気づいたか。
- ③完全失業率や有効求人倍率の意味を正しく理解でき、その読み取りが正しくできたか。

4 発展・応用例

- ①新聞記事から毎月の経済統計、例えば、国際収支（大蔵省）や機械受注統計（経済企画庁）、家計調査（総務庁）、全国百貨店・スーパー売上高（日本百貨店協会・日本チェーンストア協会）など、または経済企画庁が毎月発表する「月例経済報告」や日本銀行が発表する「日銀短観」などをスクラップさせ、その統計が意味するところを現代用語集などで調べさせる。
- ②スクラップした経済統計が毎月発表されるものであれば、翌月や前月の同じ統計の記事も探しスクラップしたり、昨年の統計を新聞の縮刷版などで探させてみるのもよい。
- ③同じ経済統計の新聞記事でも、新聞によって扱い方が違う。同じ日付の同種の記事を数紙ならべてスクラップし、その扱い方の違いを読み比べさせる。
- ④資料5のルポ風の新聞記事を読み、62歳の男性失業者について、どう思うか感想を書く。また、この問題の解決策を考えてみる。

資料3 毎日新聞 1998.3.5付朝刊



労働力調査のとりえ方

調査期間中に少なくとも仕事をしたか  
 ・主に仕事  
 ・通学のかたわらに仕事  
 ・家事などのかたわらに仕事  
 ・仕事を休んでいた  
 ・仕事を探していた  
 ・通学  
 ・家事  
 ・その他(高齢者など)

今週のなるほど博士

15歳以上 労働力人口に対する 完全失業者の割合

島信也・労働力統計課長による、失業率の定義は「15歳以上の労働力人口に対する完全失業者の割合」。労働力人口は、同庁の版  
 週刊「中、収入を伴う1時  
 間以上の仕事をしたことがなく、非労働力人口に分類されます。働く意思があっても、何らかの理由で職探しができな

総務庁が毎月調査  
 失業率は、正式には完全失業率といいますが、総務庁が毎月末に前月調査分を公表しています。調査対象は4万世帯を抽出し、15歳以上の10万人を対象に、毎月末の就業の状況を調べます。  
 週刊「中、収入を伴う1時間以上の仕事をしたことがなく、非労働力人口に分類されます。働く意思があっても、何らかの理由で職探しができな

失業率の計算の仕方

なぜ  
 ○と報道されていますが、どのように計算されているのですか。現在無職なので、関心があります。  
 秋田市、29歳女性

これを満たしていません。完全に無職でも、完全失業者とは言いません。例えば、リストに置かれて前の職を辞めた人が知り合いに頼まれたまま調査期間中に2時間ほど手伝いをし、それを現業と見なした場合、失業者とされず、アルバイト学生やパートタイムの主婦も、逆に入、小遣い稼ぎでアルバイトを探している学生でも、その状態は完全失業者とみなされません。

資料4 朝日新聞 1999.2.5付朝刊

日本の動き				
		前月比	前年同月比	
＜物価＞	全国消費者物価指数 (1995年=100)	12月 102.8	-0.4%	0.6%
	卸売物価指数 (1995年=100)	12月 97.5	-0.4%	-4.4%
	通関輸入原油価格(円/バレル)	12月 9,743	-4.6%	-40.8%
＜消費＞	全国百貨店販売額(億円)	12月 12,753	※ -6.6%	-6.2%
	全国スーパー販売額(億円)	12月 14,077	※ -3.8%	-2.6%
	新車登録台数(台)	12月 299,846		-23.5%
	国内旅行取扱額(百万円)	11月 249,797		-0.0%
	海外旅行取扱額(百万円)	11月 117,573		-7.2%
	家計消費支出(名目、全世帯、円)	11月 316,075		2.2%
＜生産＞	※鉱工業生産指数 (1995年=100)確報	12月 97.2	1.3%	-6.4%
	※鉱工業出荷指数(%)	11月 96.0	-2.1%	-5.6%
	※鉱工業在庫指数(%)	12月 99.5	1.4%	-5.1%
	大口電力販売量(百万kWh時)	12月 100.1	-1.7%	-7.0%
	※機械受注額	12月 20.684		-3.9%
	(船舶・電力を除く民需、億円)	11月 8,765	10.8%	-12.2%
	粗鋼生産量(千トン)	12月 7,356	0.1%	-10.6%
	半導体・IC生産額(百万円)	12月 244,858	-2.8%	-11.8%
＜建設＞	※新設住宅着工戸数	12月 95,746	5.6%	-10.8%
	公共工事請負金額	12月		4.3%
＜金融＞	日銀券平均発行高(億円)	12月 520,932	※ -3.1%	3.9%
	※通貨供給量	12月 96.0	0.1%	3.9%
	C/D発行レート(3カ月もの)	12月末 0.65%	0.53%	(前月末)
	国債流通利回り(10年もの)	12月末 2.013%	1.075%	(前月末)
＜貿易＞	※通関輸出(億円)	12月 37,911	3.2%	-12.2%
	※通関輸入(億円)	12月 27,542	-1.1%	-21.7%
	※経常収支(億円)	11月 13,006	前 14,618	前年同月 11,426
＜雇用＞	※完全失業率	12月 4.3%	前 4.4%	前年同月 3.5%

海外主要国			
	鉱工業生産 (前年同月比)	卸売物価 (前年同月比)	消費者物価 (前年同月比)
米 国	{ 1.9% (12月)	{ -0.1% (12月)	{ 1.6% (12月)
ドイ ツ	{ 1.8% (11月)	{ 0.5% (12月)	{ 0.3% (12月)
英 国	{ 0.9% (11月)	{ 0.0% (12月)	{ 2.8% (12月)
韓 国	{ 1.4% (11月)	{ 3.6% (12月)	{ 6.8% (12月)

米国の金利 (下段は) (前月末)	
財務省証券 (3カ月もの、12月末)	4.47%
国債流通利回り (30年もの、12月末)	5.09%
	(5.16%)

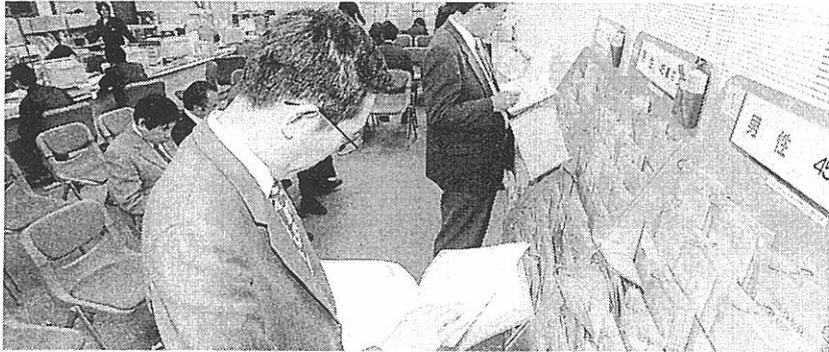
最新15歳以上労働力指数

(※は季節調整値、は速報、通貨供給量はM1+C/D、平均残高)

# 失業率過去最悪

# 職求めもがく人たち

# 職安に「通勤」1年



新宿のハローワークで職を探す人。宮本明彦撮影

# 出口ないトンネル

「もう真の暗だよ」。東京都文京区のハローワーク飯田橋（公共職業安定所）の喫煙エリアで、スーツ姿の老年男性が葉煙をゆつりと吐き出した。2月の完全失業率は3.6%と過去最悪。リストラ、倒産、いつまで続とも知れない景気低迷の中で職を失った人たちのほやきがあふれる。26日の昼下がり、ハローワークの求職コーナーは求人票を見つめる人たちが混雑していた。「早坂 文宏」

## バブル期に住宅ローン 「考え甘かった」

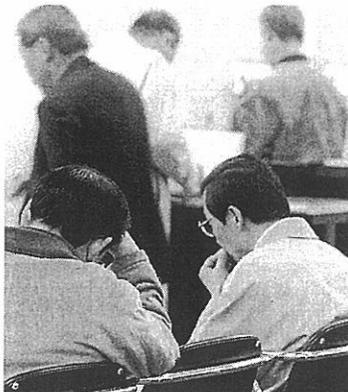
### 62歳男性

職安に通い続けて1年に「だま」と苦笑いする。失業を取り巻く状況はなるという。埼玉県坂戸市の男性(62)は「この年になる」とさうぼりた」と嘆く。58歳でコンピュータソフト会社を定年退職した。嘱託で働き続けたつもりだったが、会社は受け入れる余裕がなかった。年収600万円の給与がその日からなくなった。経理一筋だった経験を生かしたアルバイトで生計をつないだが、やがてその仕事もなくなり、昨春からハローワークに通い続ける。池袋、新宿、飯田橋と通い続ける。週の半分は通い「通勤しているようなもん」

「いままで働いていた、十分に返せました」と思った。「考えが甘かったのかな。何が原因でなくなったのかな。疑問は解けることはない。」「これだけ発展した国で仕事がないのが不思議」。簡単に納得できない。何度も書いた記入用紙に名前を記す。そして求人票をめぐら。無駄と分かっている。スーツの袖口、切れてワイシャツの襟は擦り切れていた。せうかく手に入れたマイホーム。「おれが働かなければ……。背中を丸め、就職相談の順番を待ち続けた。

資料5 毎日新聞 1998.3.27付夕刊

## 中高年に寒さ一層 最悪更新失業率 50歳過ぎ、人生何だったか...



年の瀬も職を求める人が絶えないハローワーク飯田橋=25日午前9時50分、竹内幹子撮影

年の瀬、ハローワーク職安の窓口。失業者が並ぶ。いつもの年なら年末に職を探す人減るが、今年は事情全う。白紙された目の完全失業率と有職求職率は、ともに下層更新した。「諦められればよかった。後悔はか」。これも給料は約20万減るが、それも早く再就職したい。完全失業率は前年同月の6.9%増の2.91%。年末も正月もなし。そんな厳しい現実を聞いた。【編集生 榎忠彦】

全国最大の求人件数が「求人を多く」とは「ハローワーク飯田橋」には、午どとも20万円。ここは前8時半の開扉から失業に来る。50歳を過ぎた自分にはいってほしい。11月、たまたま、噂になつて求人件数は前年同月の1.3倍も増え、約7000人にもなった。リストラや退職金が出なかったが、家から、求人多くは35歳以下のローンは返済している。後4.4%以上が救い。60歳まであと5年。これで、給料も20万円、教育費あとも。これで、終わらなければいけません。終わらなければいけません。

証券会社でリストラされた男性(59)は「初めて、証券業界に未経験は」と言う。「仕事を探しているが、仕事はあてない」と、求人票を記入していた。また、建設会社の元社員(55)は「バブル後、受注が激減してやっていた。現場もなくなった。現場もなくなったので職安だが、やはり厳しい。パートに出た妻から、早く仕事見つけてと言われます。でも、資金や仕事内容が合わず前職(50)と同等。失業率の見直しについて、労働省の証人として、労働省は「一般に増えている。後4.4%以上なる可能性もある」としており、失業者について「長く冷たい」とが、

資料6 毎日新聞 1998.12.25付夕刊